

日時：令和2年11月18日（水）

午後1時～3時

場所：真庭市立中央図書館3階 会議室

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議事項
  - (1) 第1回そだて会議での意見、提起された問題の検証について
    - ・ 計画に盛り込むべき項目について
    - ・ あたらしい図書館基本計画の大きな方向性について
  - (2) 各種統計数値等に基づく分析、評価について
4. その他
5. 閉会

#### 【議事概要】

(会長)

- ・ 前回の振り返り

#### ○計画策定の基本的な考え方

策定委員会の議論と「図書館そだて会議」の議論を"両輪"として基本計画を策定していく

#### ○前回議論の主なポイント

- ① 「基本構想」の"めざす図書館像の5つ"を基本的な使命とし、これをベースに新たなビジョンを描く
  - ② 学校図書館との連携強化
  - ③ 住民がイメージできる具体的な活動から新しい図書館像を描き出す
  - ④ GIGA スクール構想による教育と図書館の役割
- ・ コロナ禍の状況で、「場としての図書館」というものが従来のままでは難しくなっていること、人と人とのコミュニケーションのあり方など、図書館として変わらない部分と、変えていかなくてはいけない部分があると思う。そのあたりを計画にも盛り込んでいけるとよい。

(委員)

- ・ 保育現場では、保育に使う絵本が足りず保育士が休日に公共図書館へ出向いて借りてきている。
- ・ 学校に上がってから図書館を使える子になればと思う

(委員)

- ・ 授業で関わっている勝山高校蒜山校地の生徒たちと、蒜山振興局内にある図書館スペースをどうデザインするかを一緒に考えてみたいと思っている。2回目の図書館そだて会議で提示する予定
- ・ 子どもがネットで調べたことを先生方は「子どもが自発的に調べものをしている」と言われるが、実際はネットで知りたいことを絞り込んでいる子どもは少ない。そこで図書とうまく組み合わせて使うことが大事だと思う

(会長)

- ・ GIGA スクール等で、新しいデジタル技術が出てくるとそれをいかに使いこなすかという話になりがちだが、学

びの素材として活かしていくことが大切

(委員)

- ・ 中学校でも調べるとなるとネットで調べるほうが多いが、子どもの考えている範疇で調べるので広がりがない。かといって学校図書館に十分な資料があるわけではない。市立図書館との連携が大事だと思っている
- ・ 「図書館そだて会議」のなかで、中央図書館のネット環境をさらに充実させてほしいというものがあった。学校に行きにくい子どもにとってや、今年度のようにコロナ禍で学校へ行けない時に、公共施設のネット環境が十分であるといい
- ・ 図書館へ来ない人に来てもらうために自治会の集まりなどに本を持っていくという意見はよい
- ・ 図書館に一度来てもらえればよさが伝わると思う
- ・ 学校司書とも話をした。現状では厳しいので、一人一校専任、せめて一人 2 校兼務になるとありがたい

(委員)

- ・ 中央図書館は中央館としての役割を十分に果たせていないことが課題。地区館への支援も不十分
- ・ 地域の文化、証言、映像を全館で収集し真庭の子どもに伝えていくことが重要。学校教育でも使える
- ・ wifi 環境が貧弱。地方にこそ最先端の環境を。子どもが情報格差にさらされないように

(委員)

- ・ 障がいを持った子と図書館に行くとき周囲の目が気になり、気軽に行けないと思っている保護者は多い
- ・ 図書館を使う時のマナーを子どもに教えて、みんなで楽しく使えたらいい。他人の子どもは注意しにくいという人も多いので、図書館の方にうまく声をかけてもらいたい
- ・ 両親とも働いていることが多いので、図書館のイベントに来にくいのでは
- ・ 学童では移動手段がなく、図書館に行きたくても行けないと聞いている。1月に1回でもまとめて本を貸出ししてもらい、それを学童のなかで巡回させてはどうか
- ・ 市の公式インスタグラムを担当している市民 SNS チームがある。図書館で写真展ができればと聞いている

(会長)

- ・ 岐阜の図書館「メディアコスモス」には「子どもの声は未来の声」と掲示がある。子どもたちを温かく見守って、みんなで育てようという姿勢が感じられる

(委員)

- ・ 真庭への視察者に中央図書館を案内したところとても喜ばれた。SDG s コーナーは理念が具体的に見えると好評だった
- ・ 地域おこし協力隊のメンバーも図書館に対して熱い思いを持っている
- ・ 「図書館そだて会議」は計画策定が終わっても継続するか。地域の事を自分事として考えて意見を出せるこうした機会はとてもよい
- ・ ネットで検索して出てくるものはインデックス的なものなのに、子どもはネットで何でも分かると思ってしまう。検索したことから学びが発動するような、そんな学びを図書館でできるとよい
- ・ 以前勝山でも行ったウィキペディアタウンは図書館と親和性が高い
- ・ Facebook で図書館から情報発信されている、攻めの姿勢が見えてよい。用事が無くても来てね、というくらいの情報を出すとよい
- ・ 資料に統計数値があるが、来館者や登録者が増えている理由を分析して計画に落とし込んでいくとよい

(事務局)

- ・「図書館そだて会議」から地区館の応援団が生まれ、継続してほしいと考えている

(委員)

- ・図書館主催事業が充実しているが館によってばらつきがある。全館で一定の水準を保てるとよい
- ・地区館にも中央館のサポーターズのような活動があるとよい
- ・日野市の「まちかど写真館 in ひの」のようなイベントは地域の記憶を共有でき、町おこしや観光にもつながった。市民の手で行われている全国各地のアーカイブ活動が参考になると思う（参考：日経新聞 2010年 12月 11日朝刊 40面）

- ・図書館ホームページのトップページでの情報発信が活発。各地区館のページなども充実させていくとよい
- ・パスファインダーをつくってはどうか。地域情報もパスファインダーの形で発信するとよい
- ・国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスは無料で貴重な資料を利用できる。提供してはどうか

(会長)

- ・住民と共に地域情報を掘り起こしてデータとして残していく取り組みはよい

(委員)

- ・「図書館そだて会議」に参加して楽しかった。今回の資料で他の図書館で話されたことも拝見して5つのポイントがあったと思った

- ① 居場所としての図書館であってほしい：多様なニーズに応えるひとつの方法として、「静読室」などがあってもよい。さまざまな人が集えるスペースがあるとよい
- ② デジタル化：郷土資料が古くなって朽ちてしまう、民話の語りが映像化されれば授業活用も可能、実際に行けなくても動画で視聴
- ③ 各図書館に特徴があることをもっと周知：図書館だよりは見逃しがち、図書館から売り込みを
- ④ 広報：発信の仕方を LINE やインスタなどいまの時代に合ったもので
- ⑤ 司書の配置：全校配置はありがたい、図書館に人がいることで心が耕される、司書のスキルアップ、システム整備も期待

(会長)

- ・ここからは「図書館そだて会議」にかかわらず、自由に発言を

(委員)

- ・今年度とりあえず学校司書が全校配置となったが、国の基準には未到達。最低限 2校兼務にするにはあと 4人必要。かなりハードルが高いが、声を上げ続ける必要がある
- ・生徒数に応じた配置がベスト。真庭に住んでいる子どもが損をしているということにならないようにしたい

(委員)

- ・計画の立て方について、長期・中期・喫緊の課題というように分けることは可能か。学校司書の配置も同様に長期・中期・喫緊の課題とすることは可能ではないか

(事務局)

- ・可能

(会長)

- ・資料 1 の「計画の構成案」の第 4 章がそれに当たると言うことだろう
- ・学校図書館は教育課程の全体に寄与する「学習センター」としての機能も重要

(委員)

- ・ 前回は「ヒューマンライブラリー」や、地域の人のお話を聞く「聞き書き甲子園」なども図書館できるとよい
- ・ 人の本棚を図書館で再現してはどうか。人柄が表れていると思うので

(会長)

- ・ 真庭の「勝山まち並み図書館」はそれに近いのか

(事務局)

- ・ 市が店舗に本棚を貸与。本は店の方が選んで置いている。本が身近にある街並みをつくりたいという思い。小布施市の取り組みを参考にした

(委員)

- ・ 勝山には谷崎潤一郎が疎開していたこともあり、街並みを本で彩る「本の香るまちづくり」をしている
- ・ 小布施の「まちじゅう図書館」は Google マップにピンが立っている。真庭の取り組みはあまり知られていないので同様にしてはどうか
- ・ 真庭は人を資源にしている。これを見える化したい。パネルやポスターにする、図書館で紹介する、などもよいと思う

(会長)

- ・ 滋賀県愛知川町の「町のこしカード」（「歴史的、文化的、自然的な地域資源を記録し地域の財産目録として活用するというフランス発祥のエコミュージアムの手法を取り入れたもの」文科省 HP）というものもある
- ・ 人物を図書館の蔵書にするのはいいアイデア

(委員)

- ・ 館内に飲み物持ち込み可能になったので、図書館にキッチンカーが来る日を設けてはどうか

(会長)

- ・ 岐阜の「メディアコスモス」では図書館のビジネス支援サービスを受けて起業した方が図書館に出店されていた

(委員)

- ・ 広報真庭の「真庭人」のコーナーのように、毎月 1 人 1 冊紹介するというのはどうか
- ・ Facebook で 7 日間本を紹介していくリレーのようなものもありおもしろかった。あんな企画も図書館で

(会長)

- ・ 大人が主体的に学んでいるという状態を図書館がつくるのが大事
- ・ 学校で地域の方々にこんなことをしてもらえたらいいなというようなことがあるか

(委員)

- ・ 地域の方が学ぶ場として学校を開いていくのもいいなと思う
- ・ 参観日に講師を招いて保護者と一緒に学ぶ機会はある。ここに地域の人にも来てもらってもよいと思う

(会長)

- ・ 学校が地域の方の学びの場にもなるというのはいい。図書館がそこに関わっていくことは可能だと思う

(委員)

- ・ 地域の方に学校の取り組みや困っていることをなかなかお知らせできない。先日「真庭教育の日」というイ

イベントを中央館で開催してとてもよかった。中学校に地域の方に自由に来ていただくのは難しいので、図書館で学校のことが分かるというのはよいと思った

(委員)

- ・ 保育現場ではご高齢の方に読み聞かせにきていただけるといいと思っている

(会長)

- ・ 行政サイドとして補足しておきたいことはあるか

(事務局)

- ・ 今年度やっと全校に学校司書を配置できた。国の地方交付税ではとても賄えない。現在司書がやっている業務のなかには事務補助やボランティアに任せられる部分をもっとあるのではないか。そうなると学校にもう少し配置できるのではないか。学校だけの学校図書館だと財政的に手厚くしていくのは厳しい。

(委員)

- ・ 学校図書館の司書配置は誰でもいいというわけにはいかない。資格も経験も必要。最終的には1校に1人が必要

(会長)

- ・ 地方交付税交付金が十分でないのはおっしゃる通り。真庭で兼務でも全校配置したことは大きな1歩
- ・ 計画が絵に描いた餅にならないよう、優先順位を決めてやっていくことが大事。住民としてできることも出し合って行ければ

(委員)

- ・ 中学校で子どもが調べるとなるとネットで、とおっしゃっていたが Google などの検索エンジンか。司書教諭の発令はあるか。司書と司書教諭が協力できているとよい

(委員)

- ・ 調べ学習に何を使ってどういところまでは把握していない。子どもはネットを使ってもことばの断片だけを使って調べているのではないかと思う
- ・ 司書教諭は発令されているが、司書の支援は不十分
- ・ 専任だと違うのかもしれないが、兼務だと難しい

(委員)

- ・ 「まにわボックス」というのがあるようだが、どういうものなのか

(事務局)

- ・ 生涯学習課で地域のことを知ってもらうために市民と共に発行してきた。なかなか活用されていない

(委員)

- ・ 林業・バイオマス産業課の小中学生向けのツアーを受託しており「まにわボックス」活用にも協力できる

(会長)

- ・ 先ほど、委員から整理していただいた内容がとても分かりやすかった

居場所としての図書館、デジタル化、特に郷土資料を地域で、各地域の特色、広報について、司書の配置について

- ・ 司書の仕事がどういうものなのかを市民に知ってもらうことが大事
- ・ 3回目以降の委員会は、事務局からの提案を受けて長期的、短期的などの議論を進めていく
- ・ 市としてどのような計画にしたいと思っているか

(事務局)

- ・ 前回、中央館長が示されたことと全く同意見。自治がどう担保されていくか、図書館がどう支援していくか、地域の役に立つ図書館になってほしい

(委員)

- ・ 図書館そだて会議に学生に参加してもらうのはどうか

(事務局)

- ・ ぜひ参加してもらいたい。お声かけをお願いします

#### 4. その他

第3回策定委員会は、2021年2月4日（水）午後1時より真庭市立中央図書館で開催（予定）

#### 5. 閉会